



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ワークショップについて
Relation	第6回 人文・社会科学系研究推進フォーラム報告書 II ワークショップの記録 「人社系が参画・先導する学際プロジェクトとは」
Issue Date	2021-03-29
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/83465
Type	conference presentation
File Information	JF6_hokudai_2-1_aboutWS.pdf



ワークショップについて

10月9日（金）に開催されたワークショップの部について、当初は、講演の部の後に会場を移動して対面で実施する予定であったが、オンライン開催へと変更するにあたり、講演の部と別日に設定し、ワークショップには原則として講演の部に参加した上で臨んでいただくこととした。

ワークショップでは、次の二つのテーマ、①「人社系主導のプロジェクトとは」、②「課題解決型プロジェクト（の成功）に人社系は必要か」に分かれ、各テーマにつき5グループ、計10グループでのグループワークを想定し、参加者を1グループ8人程度となるよう、事前に主催者側でグループ分けを行った。それぞれのグループには、人社系 URA ネットワーク幹事校 URA が、リーダー・サブリーダーとしてファシリテーションにあたった。当日のグループワーク時間が限られていたことから、各グループで事前にコンタクトをとり、当日のディスカッションがスムーズに行われるように準備した。なお、各グループのテーマは、グループ1～5が①「人社系主導のプロジェクトとは」、グループ6～10が②「課題解決型プロジェクト（の成功）に人社系は必要か」となっている。

当日の流れは以下の通りである。

1. 開会挨拶
2. グループディスカッション（グループワーク） ※ブレイクアウトルーム
3. グループ発表
4. 講評（鈴木一人 東京大学 公共政策大学院 教授）、質疑応答

オンラインでのディスカッションとなるため、各グループでディスカッションに利用できるオンラインツール（ホワイトボードや付箋にあたるもの）を利用するなどして、50分のグループワークを行った。Zoom ミーティングのブレイクアウト機能を使い、各グループがそれぞれブレイクアウトルームで議論し

た。講評の鈴木教授が、グループワーク中の各グループをまわり、それぞれの議論を共有し、質問・アドバイスを行う等、議論の活性化に寄与した。

また各グループには、講演の部の登壇者も参加し、講演の部での発表内容を生かした議論展開となった（各登壇者の参加グループは以下の通り（「講演の部」登壇順、敬称略）：近藤康久＝グループ8、城山英明＝グループ1、南了太＝グループ5、高橋そよ＝グループ4、田口茂＝グループ2、堂目卓生＝グループ6、山内太郎＝グループ7）。

グループワークの後、メインのミーティングルームに全員が戻り、各グループの議論の概要について、発表し合った。発表中に、付箋を使ったりリモート会議ツール petari (<https://petari.work/>) を利用して、意見や質問を書き込んでいくこととし、議論の活性化につなげた。発表後に、鈴木教授による講評があった。

報告書の記録は、グループワークの成果として、各グループの発表とグループワークでの議論の概要、そして鈴木教授による講評および petari での質問への鈴木教授の回答と参加者からの petari への書き込み（抜粋）となる。